奈良絵本集 全八巻

高精細カラー版

新天理図書館善本叢書【第四期】第23～30巻

伝本の稀な室町末期から
江戸極初期までの逸品に加え、
多彩な作品群の中から
優品24点を精選！
高精細カラー版により、
微細な色遣いが一目瞭然に！

【解題】
石川　透（慶應義塾大学教授）
金光桂子（京都大学教授）
恋田知子（国文学研究資料館准教授）
齋藤真麻理（国文学研究資料館教授）

Shin Tenri Toshokan Zenpon Sosho　This new series offers full color, high resolution facsimiles of the special collections possessed by Tenri Central Library.The fourth distribution consists of eight volumes of 24 works of Nara-Ehon, most of which were composed at the end of Muromachi period through the early Edo period. The colorful pictures adopted in those works enrich the world of medieval Japanese fairy tales.

新 天理図書館善本叢書【第４期】内容見本

2018年12月刊行開始
迫力の大型判（A4判）
予約募集！【隔月配本・分売可】

八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.

新天理図書館善本叢書【第４期 奈良絵本集 全８巻】2018年12月刊行開始！

【高精細カラー版】古典研究者・図書館必備の新シリーズ！

- 造本　A4判（横・縦）／上製本／クロス装／貼函入／平均250頁予定
  ＊A4判横：第23～26・30巻／A4判縦：第27～29巻
- 製版・印刷　イクオス・スーパーセル260線・ハイブリッドUVシステム
- 配本　隔月配本（偶数月・下記参照）
- 定価　第４期全８巻セット予価（本体268,000円＋税）
- 各巻分売可　第４期平均予価（本体33,500円＋税）

第四期 奈良絵本集 全八巻

ISBN978-4-8406-9593-0（第四期全八巻セット）

※〔　〕はISBN下5桁

【配本予定】

第1回配本〔2018年12月〕
第23巻　奈良絵本集 一　本体予価三三、〇〇〇円〔9573-2〕
天神縁起絵巻（室町末期写）／八幡大菩薩御縁起（江戸中期写）／鼠の草子絵巻（室町末期写）／鼠の草子絵巻別本（江戸初期写）／やひやうゑねずみ（江戸初期写）

第2回配本〔2019年2月〕
第24巻　奈良絵本集 二　本体予価三三、〇〇〇円〔9574-9〕
舟のゐとく（江戸前期写）／常盤の嫗（江戸前期写）／小男の草子絵巻（室町末期写）／小男の草子絵巻別本（慶長十二年写）／小おとこ（江戸初期写）

第3回配本〔2019年4月〕
第25巻　奈良絵本集 三　本体予価三三、〇〇〇円〔9575-6〕
小伏見物語（江戸初期写）／ひだか川（江戸初期写）

第4回配本〔2019年6月〕
第26巻　奈良絵本集 四　本体予価三三、〇〇〇円〔9576-3〕
あま物語（江戸初期写）／大古久まい（江戸前期写）／磯崎物語（江戸前期写）

第5回配本〔2019年8月〕
第27巻　奈良絵本集 五　本体予価三三、〇〇〇円〔9577-0〕
いはやものかたり（室町末期写）／じやうるり（室町末期写）

第6回配本〔2019年10月〕
第28巻　奈良絵本集 六　本体予価三三、〇〇〇円〔9578-7〕
しづか（室町末期写）／まんぢうのさうし（室町末期写）／花鳥風月物語（室町末期写）

第7回配本〔2019年12月〕
第29巻　奈良絵本集 七　本体予価三三、〇〇〇円〔9579-4〕
熊野の本地（室町末期写）／宝月童子（江戸初期写）

第8回配本〔2020年2月〕
第30巻　奈良絵本集 八　本体予価三七、〇〇〇円〔9580-0〕
虫妹背物語（享保二年写）／山海異形（江戸前期写）

【発売】八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町3-8　● E-mail　pub@books-yagi.co.jp
● TEL　03-3291-2961［営業］　03-3291-2969［編集］　● FAX　03-3291-6300
● Web　https://catalogue.books-yagi.co.jp/
〔2018.10.tp.20,000〕

奈良絵本の魅力

― 新善本叢書第４期刊行によせて ―

慶應義塾大学教授
石川 透

新天理図書館善本叢書のシリーズの中に、奈良絵本集全八巻が含まれることになった。さまざまな古典籍の中で、高精細カラー版として刊行されるならば、奈良絵本（絵巻を含む）ほどふさわしい作品群はない。天理図書館に収蔵されている奈良絵本は、その質量ともに、世界最高峰に位置すると言ってよい。その繊細かつ豪華な彩色の保存上、簡単には閲覧できない状態にあったが、奈良絵本集として高精細カラー版で公刊されることは、研究者のみならず、多くの読者にとっても、有益であるに違いない。

奈良絵本・絵巻とは、室町時代後期から江戸時代中期にかけて作られた、彩色絵入りの絵本や絵巻のことである。印刷本と違い、一点一点が手作業で作られており、素朴な作品から豪華なものまで、さまざまな作品が残されている。素朴な感じを受ける作品は、個人が私的に作った可能性もあるが、豪華に作られた作品は、明らかに、職人、すなわち、絵師や書家によって、それぞれの分業で制作されたものと思われる。

奈良絵本の研究はこの二十年ほどで格段に進み、特に江戸時代前期に制作された作品群については、一部の制作者の特定等から、制作年代もかなり具体的に分かってきた。今回のシリーズには、旧善本叢書において公刊された江戸時代より前に制作されたとされる古奈良絵本のみならず、江戸時代前期に制作された豪華奈良絵本も含まれることになった。その多くが初めて紹介される作品ばかりなのである。

これまで広く知られていた、小男や鼠等のかわいらしい作品ばかりではなく、後世に広く影響を与えたさまざまな著名な人物や事件をめぐる作品群も存在している。研究のためだけではなく、見るだけでも楽しい作品群をぜひお楽しみいただきたい。

天理図書館について

大正十四年（一九二五）三月、中山正善天理教二代真柱によって、天理教の総合図書館設立が計画された。翌十五年十一月、約二万六千冊をもって閲覧を開始、その後、昭和五年に現天理図書館本館が竣工し、現在の活動の第一歩が踏み出された。以来、満十五歳以上のすべての人々に広く公開して、天理大学付属図書館であると同時に、宗教研究・一般学術研究の専門図書館として様々な活動を続けている。

現在の蔵書数は約二百万冊。宗教学・東洋学・オリエント学・民俗学・地理学・言語学、中でも国文学等において精選された資料の蒐集を続け、これらの分野では極めて貴重な文献を数多く所蔵している。

こうした所蔵資料の公開・利用のために、一般蔵書目録の他にも、各種の貴重書目録・主題目録、また、貴重資料の影印複製・各種図録類を刊行。館報『ビブリア』（現在、第150号）では、所蔵資料の紹介・翻刻等を行っている。

天理図書館　正面と貴重書庫

1　天神縁起絵巻　室町末期写　一軸

菅原道真が神として祀られる次第を述べた天神縁起の一本ではあるが、鎌倉時代に成立した『北野天神縁起』の内容とは大きく異なる。太宰府へ遠流された復讐譚を軸に、逸話や和歌を交えるなど、物語的な要素を多く取り入れた作品となっている。画中には「なんほうの物か、やけつらん」「さても、とをきうみかな、はや、いく日、きぬるそや」等の台詞が多く書き込まれ、室町時代の人々の生き生きとした話し言葉を窺い知ることができる。室町期の書写と思われる天神縁起絵巻の中でも、本文の完備した本書は稀な伝本である。

2　八幡大菩薩御縁起　江戸中期写　二軸

本書は八幡大菩薩の縁起絵巻。応神天皇の母である神功皇后の三韓出兵、および応神天皇が八幡大菩薩として現れ、各地で祀られる経緯を描く。素人風の絵柄で、江戸中期と見られる写本であるが、享禄四年（一五三一）「大和州添上郡御陵金剛佛子良尊」の本奥書を持つ。伝存する諸本の中でも、本文成立過程をたどる上で、重要な一本である。寶玲文庫旧蔵。

3　鼠の草子絵巻　室町末期写　一軸

鼠と人間の婚姻譚。清水観音の助けで姫君と結ばれた鼠の権頭は、姫君にその正体を知られ、悲嘆のあまり出家する。悲劇的な結末だが暗さはなく、「こちよとの、き、たまへ、われわれをは、とのさまをはしめ、みなみなも、ふりよしと、おほせられ候、かほも、やなぎがをにて候とて、御ほめ候」等に見られる人間味溢れる会話がふんだんに書き入れられ、ユーモラスに描かれる。素朴な絵柄に本文と会話が一体となった奈良絵本の古様を示す。

4　鼠の草子絵巻　別本　江戸初期写　一軸

本書は祝言の場面を中心とした絵巻ではあるが、絵を中心に会話を交えて展開してゆく、絵巻らしい流動感に富んだ作品。調理場の料理や盛り付けにかかる慌ただしい様子、芸能者達の列や祝いの餅つき等の描写をはじめとして、流行の歌謡を取り入れるなど、当時の風俗を知り得る貴重な資料ともなっている。画中の煙草や髪形など、また書き込まれた歌謡からみると、江戸初期の制作かと思われる。

5 やひやうゑねずみ　江戸初期写　一冊

白鼠の弥兵衛を主人公とする祝儀物。白鼠は大黒天の使者といわれ、古来より吉兆とされてきた。本書は上冊を欠き、弥兵衛が出会った鼠から、ここは常磐国であると教えられるところから始まる。福の神として長者の左衛門に厚遇され、土地の鼠たちからも歓待された弥兵衛は、左衛門によって妻子と再会した恩返しに子鼠と金銀を贈り、左衛門はますます富み栄える。昔話の「鼠の浄土」に通ずるところがあり、土地の鼠による饗宴の絵などは、それを彷彿とさせる。末尾に「はるのはしめに、まつこれをみる事成り」とあるように、縁起物として正月に読むのが相応しいとされた。藤井乙男旧蔵書。

二　第24巻　第2回配本〔2019年2月〕

1 舟のゐとく　江戸前期写　二軸

巻初で「世にすくれて 国土の重宝 万民のたすけとなるは 船舶に過たる物あらし」と舟のありがたさを述べ、中国古代における舟の起源を含む中国の故事二話、日本の故事六話を収める威徳説話集。謡曲や幸若舞曲、『太平記』等に典拠が確認でき、巻末には竜頭鷁首、軍船、つり舟等と物尽くしのごとく舟の種類が記される。箱蓋裏の極には「詞書飛鳥井雅章卿／土佐光成筆」とある。伝本は稀で、本文と絵を共に備えるのは、本書の他に國學院大學蔵本を知るのみ。

2 常盤の嫗　江戸前期写　一軸

発心往生譚の形を取りながら、老いの繰り言の中に、人間の真の姿を感じさせる物語。夫に先立たれた常盤の嫗は、老いた身の儚さを嘆き、俄に発心念仏を始めるが、唱名の合い間には、あらゆるものを食べたがり、子に対する不平不満などを漏らしたかと思うと、自らの若い頃を懐かしむ。このような老人の寂しさ、俗念・煩悩に満ちた念仏ではあったが、嫗は念願通り往生を遂げる。独白の形を取り、滑稽味に溢れた七五調の文章は、御伽草子の中でも独自の世界を創り出している。

3 小男の草子絵巻　室町末期写　一軸

出世・栄華を求め、都に上った身の丈一尺の小男が、観音菩薩の縁日で見初めた美しい女性と和歌の才能によって結ばれ、のちに小男は五条の天神に、女性は観世音菩薩として現れる。『一寸法師』と同様の小さ子説話で、身分の低い者が自らの才能で功を成すという、中世庶民の活気を感じさせる作品である。また筋立てや歌の類似などから、その成立において『ものくさ太郎』と非常に近い関係にあることが認められる。4『小男の草子絵巻 別本』に比べ、中世的な要素を多く持っており、諸本の中にあって比較的古い本文とされる。

4 小男の草子絵巻 別本　慶長十二年写　一軸

3『小男の草子絵巻』及び5『小おとこ』とは別系統の伝本で、他に早稲田大学本を知るのみ。最も大きな違いは、女性が清水観音から授かった打ち出の小槌で小男を打つところで目覚めると、小男は七尺余りとなっており、関白に見参して筑紫の国を給わった後、楽しみ栄えたという結末である。小男が五条の天神として現れる話は姿を消して、より物語的になっており、おとぎ話の『一寸法師』は、この系統の作品の影響を受けたものだと推測されている。「ひろしまにてかきうつす也　慶長十二年ひのとのひつし二月五日」の奥書を持つ。

5 小おとこ　江戸初期写　一冊

内容は3の『小男の草子絵巻』とほぼ同様。『小男の草子』『小おとこ』と呼称される作品は、身分の低い小男が和歌の才能によって美しい女性と結ばれる成功譚と同時に、のちには五条の天神となって現れるという本地物語でもある。卓越した和歌の才能は天神である菅原道真を想起させ、併せて身体の小さな少彦名命を祭神とするところから、五条天神が選ばれたものと考えられている。また、京に上った小男が奉公先を尋ねて歩く町家の門や、見初めた女房の住まいには、それぞれの紋を染め抜いたのれんが掛かっており、洛中洛外図などに見られる都の風景を描き出している。

三　第25巻　第3回配本〔2019年4月〕

1 小伏見物語　江戸初期写　三冊

たかみちの中将と小伏見姫の悲恋譚。『桜の中将』の異本とされ、本文が揃った写本としては、本書の他に国会図書館蔵『桜の中将物語』と赤木文庫蔵『こふしみ』の二本を知るのみである。ただし、その内容は全く異なる結末を有している。中将の父によって仲を引き裂かれた小伏見姫は難波の浦で病に倒れるが、国会図書館蔵本では霊薬により姫が蘇生し、中将と末永く結ばれる。それに比して、本書並びに赤木文庫蔵本では姫の死を知った中将も無常を感じ仏門に入るのである。横本形式の慶長期と見られる奈良絵本は珍しい。

2 ひだか川　江戸初期写　一冊

安珍・清姫で知られる道成寺縁起を骨子に、主人公の名を賢学とする『賢学草子』系統の伝本。本書は、三井寺の僧賢学が前世の因果により、結ばれるとお告げに聞いた娘の存在を確かめるべく、遠江国橋本宿に辿り着いたところから始まる。賢学は、この地の幼い姫がお告げに聞いた娘と思い、殺そうと斬りつけ逃げたが、姫は一命を取り留める。数年後、清水寺で賢学は美しい姫と出会い、結ばれるも、過去に殺そうとした姫だと気づいた賢学は熊野へ逃げ、追いかける姫は日高川でその姿を大蛇へと変える。道成寺縁起の結末では法華経の功徳を説くが、本書では寺の名もなく、男女の悲劇として物語を終える。

四　第26巻　第4回配本〔2019年6月〕

1　あま物語　江戸初期写　二冊

貴人と海女との恋愛譚。湯治のため浪速に赴いた左近中将兼光は、土地の海女と歌を詠みあい情けを交わすが、懐妊した海女は身分の違いを感じて入水する。海女は右大臣のもとに生まれ変わり、兼光と再会して再び結ばれ栄華を極める。平安から鎌倉時代にかけての散佚物語の改作と考えられる。物語中に五十首に及ぶ和歌を配し、この期の草子には珍しい歌物語的な作品となっている。本作の奈良絵本は本書の他には上巻を欠く一本が知られるのみ。

2　大古久まい　江戸前期写　二冊

唐の孝行説話を用い、その善報を語るという教訓的内容を持つ。親孝行者の大悦の助は、清水観音のお告げ通り、一本のわらを元に富を得、大黒天、夷三郎の来訪によって、さらに宝物を手にする。大江山の盗賊や悪霊からも二神の助けで救われた後、帝から厚遇され、末永く繁昌した。立身出世・栄華繁昌を願う中世庶民の夢が、清水観音の御利益と福神の助けによって叶う祝儀物である。

3　磯崎物語　江戸前期写　二冊

日光山の麓に住む武士夫婦の物語。磯崎殿が連れ帰った女に女房が嫉妬し、杖で打ち殺してしまうが、その時被っていた鬼の面と杖が取れなくなる。日光山の稚児学匠である息子に仏への信仰を説かれ、その教えに従い座禅を組むと面も杖も離れ落ち、元の姿となった。女房は殺した女を弔うため出家し、磯崎殿も仏門に入る。本妻が後妻を打ち付ける後妻打の話を基に、女の嫉妬がもたらす悲劇から仏の道へと導く、発心遁世譚。

五　第27巻　第5回配本〔2019年8月〕

1　いはやものがたり　室町末期写　二冊

鎌倉時代の物語歌集『風葉和歌集』にみえる散佚物語『いはや』の改作かとされる継子譚。継母に疎まれた対屋の姫は、太宰府に下る途次で殺されるところ、海士夫婦に助けられ岩屋で養われていた。数年後、姫は関白の息子である二位の中将に見出されて妻となり、北の政所と仰がれた。本文の一部や絵詞の書き込まれた画が半分以上を占め、奈良絵本としての古態を示す。また、文章で菱形や蝶、七宝など様々な形を表した点も特徴的である。室町末期の南都連歌師紹九筆とも伝える大型奈良絵本。

2　じやうるり　室町末期写　二冊

源義経を主人公とする判官物の一つで、薬師の申し子である浄瑠璃御前との恋物語。金売吉次の供として矢作の宿に着いた義経は、土地の浄瑠璃姫と結ばれるが、別れを惜しみつつ、奥州へ向かった蒲原宿で病に倒れる。浄瑠璃御前の御所における泉水の描写や四季の彩り、御前の才色兼備なるところや衣装の豪華さを事細かに述べる段は、まさに節事・景事であり、浄瑠璃節への胚胎を感じさせる。本書の挿画は全て中央に雲形を描き、上半分に本文を記しているのが特徴的である。室町末期の書写と考えられる大型奈良絵本。

六　第28巻　第6回配本〔2019年10月〕

1　しづか　室町末期写　一冊

源義経の側室静御前を主人公とする判官物。捕らえられ、母と共に鎌倉に下った静御前。御子を殺され悲嘆に暮れる静のもとに、大名高家の女房達が訪れる。時に、若宮八幡奉納の静の舞が、頼朝はじめ居並ぶ諸大名の感涙を誘い、褒美として所領や引き出物を授かるも、全て鎌倉の社寺に寄進し、母と共に都へ向かった。本書は幸若舞曲の一本で、挿画には本文が入り込み、上段に本文、下段に人物を中心にした絵を描く。慶長ごろの画風とされる大型奈良絵本である。

2　まんぢうのさうし　室町末期写　二冊

平安時代の武将多田満仲の出家譚が説話として伝わり、幸若舞曲や謡曲へと展開した。満仲は仏道修業を疎かにした息子の美女御前に立腹し、その首を討つよう家臣仲光に命じた。しかし、仲光は美女御前を逃がし、身がわりに自分の息子幸寿丸の首を刎ねた。幸寿丸の死を悔やんだ美女御前は恵心僧都の許で仏道に励み、十数年後、再会した父満仲とともに幸寿丸の菩提を弔った。巻末には自他一如の教えが説かれる。本書は幸若舞曲の台本を大型の奈良絵本に仕立てた、室町末期頃と思われる写本。

3　花鳥風月物語　室町末期写　一冊

王朝物語の流れをくむ公家物の一つ。葉室中納言邸で扇合が催された際、扇に描かれた人物が、在原業平か光源氏かとの言い争いとなり、巫女の花鳥・風月姉妹を招いて占わせる。業平・光源氏の霊を呼び出し問答すると、絵の人物は光源氏であることが判明した。姉妹の口を通して語られるのは『伊勢物語』『源氏物語』のあらすじであり、物語の形を取りながらも古典の啓蒙書としての役割を併せ持つ。本書の極は、本文を飛鳥井雅俊筆、画者を土佐光信と記し、室町中期の写本とみるが、室町末期の書写にかかると思われる大型奈良絵本。

七　第29巻　第7回配本〔2019年12月〕

1 熊野の本地　室町末期写　二冊

本地物の代表的作品で、熊野信仰説話の一つ。寺社の縁起譚でもある。天竺まかだ国の善財王の后の一人、五衰殿の女御が懐妊するが、嫉妬したほかの后達は配下に命じて五衰殿を殺させる。女御の死の直前に生まれた王子は、山の獣や僧に育てられ、やがて王と再会する。全ての経緯を知った王は后達の心の醜さを嫌い、王子らとともに国を離れ日本に渡り、紀伊国音無川の辺に熊野三所権現として現れた。極は、室町時代の武将で、歌人・書家としても秀でた十市遠忠の筆とする。挿図が非常に多く、上下三十七丁半のうち四十頁分を占める、室町末期書写の大型奈良絵本。

2 宝月童子　江戸初期写　二冊

天竺を舞台とした宝月童子の孝行譚で、伝存するのは本書のみ。中天竺の満月長者は、授かった宝月童子が病弱だったため、不老不死の木の実を探す旅に出る。北天竺にたどり着いた一行は、財産を狙う大王が酒宴に出した霊草を食して馬となり、厩につながれる。時を経て十三歳になった童子は北天竺におもむき、長者一行を救い出す。「およふのあま」なる長者を記すが、それ以後の記述はなく、老僧の失敗談を描いた『およのの尼』とは異なる作品。金泥による草木下絵を施した鳥の子紙を用い、細密な絵を備える豪奢な大型奈良絵本。後期奈良絵本の代表的な装訂である。

八　第30巻　第8回配本〔2020年2月〕

1 虫妹背物語　享保二年写　一軸

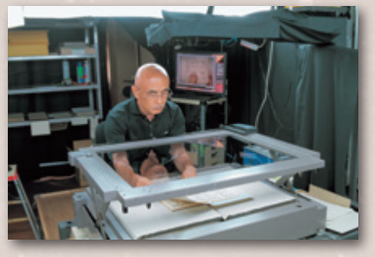
昆虫同士の恋愛物語。玉虫姫に思いをよせる虫たちの中、蟬の衛門督がこおろぎの局の取りなしで思いをとげる。盛大な祝言が行われる一方、恋に破れたキリギリスとヒグラシは出家し、玉虫姫は男の子を授かり幸せに暮らす。画中に書き込まれた会話と相俟って、文のやり取りや嫁入りの様子、出産の場面等が生き生きと描かれる。箱書には享保二年（一七一七）狩野幽知画、筆者を山田藤四郎とする。本作品で絵と本文を共に備えるのは本書と慶應義塾本のみ。

2 山海異形　江戸前期写　四冊

中国の各地に生息するとされる動物や、その地に奉られている神々について、神類・獣類・魚類・虫類の四類四冊に百十三図の絵を収め、各々に説明文を添えたもの。異形怪異な絵が散見され、中国古代の地理書である『山海経図』の類を参考にして、取捨選択したものと思われる。江戸期における『山海経』受容の一端が伺える資料である。各冊の巻頭には、徳川御三卿の一つである田安家の蔵書印「田安府芸台印」が捺される。

影印本文見本（A4判横）

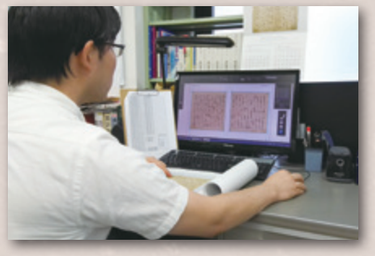
【高精細カラー版】新天理図書館善本叢書の製作現場



❶ 原本撮影：天理図書館

古典籍・古文書に最適な撮影技術を用いて、高精度なデジタル撮影（約 2,230 万画素）を行い、可能な限り豊富な原本情報の再現を図る。

⬇



❷ レイアウト：八木書店

DTP ソフト（Adobe InDesign）を用いて、影印本文のトリミング・柱表示・ノンブル等の割付を行い、校正刷で確認の上、天理時報社に組版データを入稿。

⬇

❸ 色校正：天理時報社

撮影 RAW データを CMYK 4 版に変換して色補正を行い、高精度の印刷用画像を生成。料紙・墨文字・朱などの色調整を済ませて、本番に使用する印刷機・印刷用紙で全頁の校正刷を印刷。

⬇

❹ 原本照合：天理図書館

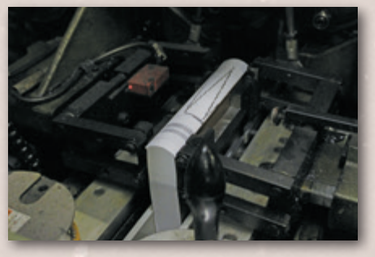
原本と本紙色校正との色照合を、天理図書館・天理時報社の担当者で実施。１頁毎に全体イメージと料紙・墨文字・朱などの部分イメージを照合し、要調整箇所については校正刷に指示を記入。これを元に印刷用データを調整。

⬇

❺ 印刷：天理時報社

最新のハイブリッド UV システムを使用（印刷機は KOMORI GL-540H-UV）。インキは UV 光照射による速乾性で、最終的な仕上がりを即時に確認可能。天理図書館・八木書店の担当者も立ち会い、点検・調整の上、印刷を進行。

⬇



❻ 製本：博勝堂（東京都新宿区）

糸かがり、上製クロス装とし、日常の連用・長期保存に耐える堅牢な製本に。

影印本文見本（A4 判縦）